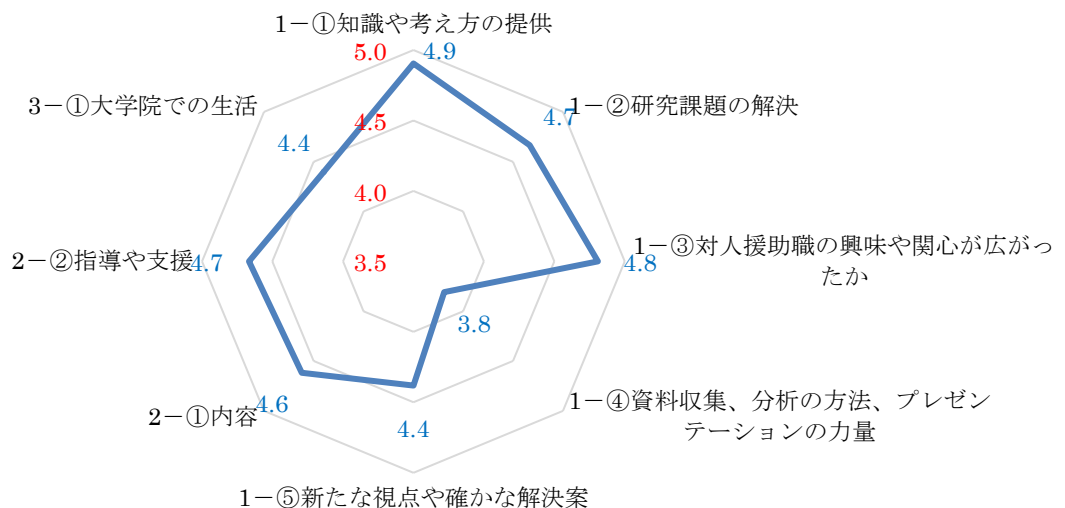


武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科 2016 年度修了生アンケート結果（修士 17 名、博士 4 名）
（2017 年 3 月実施）

大問	小問	平均値*	評価の具体的内容	改善の方法
1 学修について	①新たな知識や考え方を提供したか。	4.9	研究者としての基礎や研究方法、倫理的配慮を含めたマナーを学ぶことができた。 研究分野だけでなく、多分野の知見や考え方を知ることができた。	
	②専門分野の問題や研究課題の解決に活用できたか	4.7	当事者の理解など、専門分野からの視点が広がった。 新たな研究課題が明らかになり、さらに学びたいという意欲が刺激された。	
	③対人援助職の広範な取り組みに興味や関心が広がったか	4.8	援助実践に対して、援助者・当事者の双方からの見方ができるようになった。 自分の専門性にだけとらわれてはいけなことを自覚した。	
	④アンケートや聴きとり、資料収集などの方法やその読み解き、分析の方法、さらにプレゼンテーションの力量はついたか。	3.8	研究・調査のデザイン、実際の調査やその分析の方法を知ることができた。 量的調査の統計分析の方法が十分に身につかなかった。 プレゼンテーションの力量をつける経験が必要だと感じた。	指導教員や助手が連携し、院生の研究上の課題に応えられるようにする。 全体特研や中間発表会で、積極的に研究交流できるように進行の工夫をする。
	⑤現場で生じる様々な課題や問題についての新たな視点や確かな解決案が考えられたか	4.4	現場での課題意識を大学院で学べるように、学修機会を保障すべきである。 エビデンスを示して課題を論じることの重要性を感じた。	
2 授業や研究指導について	①充実した内容だったか	4.6	教員の専門分野の見識だけでなく、教育観にふれることができた。 土・日曜の演習室の利用などを希望する。	院生の情報演習室への入室を改善したが、さらに日曜日の利用ができるように検討している。
	②研究に対する指導教員の指導やゼミの院生の支援は、充実していたか	4.7	研究内容だけでなくモチベーションが向上するよう支援を受けることができた。 ゼミの時間に研究交流がいつそう深まるように指導してほしい。 指導教員を院生が個人名で希望できるようにしてほしい。	課題研究と演習の時間割の工夫を検討する。 指導教員の負担が過重にならないように配慮しながら、院生の希望にも添えるよう、事前に希望する教員と懇談するなどの意思疎通の場をいつそう拡大したい。
	①大学院での生活(授業や研究の環境も含め)は、充実していたか。	4.4	就業しながらの学生生活はつらい時も多かったが、仲間が励ましてくれて頑張れた。 夜間2限だけの学修では足りないと思うことがあった。 図書館や演習室を利用しやすいように改善してほしい。	教員との研究相談の機会を充実させるとともに、自主的な学修を支援していきたい。 中央図書館の開館時間を 21 時半まで延長した。 教育研究所図書資料室は抜本的な蔵書整理を行う。 学生研究室に PC を設置するなど、利便性の向上に努めている。

*1-5 の 5 段階評価で、5 が最も高い評価



評価のレーダー図（便宜上、中心を3.5としている）

大学院生活についての自由記述（一部抜粋）

- ・ 現職の社会人の方がほとんどで、助け合ったり、配慮していただいたりというのは本当にありがたかった。
- ・ 文献を読んでプレゼンテーションをし、他の方の意見を伺えた。授業ではほぼ毎回、自分自身に置き換えて考え、能動的に学習できた。
- ・ さまざまな方と出会い、一生の友人ができた。特に私とはまったく違う分野の方々と出会えたことは大変有意義な経験となった。

学生評価に対する研究科としてのコメント

今回のアンケートによる学生生活評価では、修士課程修了生 17 名、博士後期課程修了生 4 名から回答をいただきました。全体としては満足度が高く、5 段階評価で 4 に満たなかったのは、「資料収集などの方法とその読み解き、分析方法、プレゼンテーション力」のみでした。

修士課程では、夜間 2 年間という限られた時間の中で、これらの能力を形成していただくために、ここ数年方法論に関する授業の強化を進めてきましたが、さらにそれらをブラッシュアップし、期待に沿えるよう授業内容の改善に努めてゆきたいと思っております。

プレゼンテーション力につきましては、修士中間発表や博士後期課程全体特研などに参加することにより、自らの経験を深めていただくようにしていますが、これについてもさらに検討をしたいと思います。

社会人を中心とした本研究科が期待している、他職種との交流とそれによる関心の広がりについては、高い満足度が得られており、このディプロマ・ポリシーは達成されていると考えています。

今後も、これら修了生、現役院生の意見を参考として、研究科の教育・研究指導をさらに向上させてまいります。

臨床教育学研究科 自己評価委員会
(2017 年 5 月)